別紙様式２

平成30年度　県立石岡商業高等学校自己評価表

目指す学校像	生徒の人格を重んじ，地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むと共に，社会に有為な調和のとれた人間の育成に努める。

昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
県ﾜｰﾌﾟﾛ競技大会で個人優勝し，全国大会に出場した。運動部では，弓道部・少林寺拳法部が関東大会に出場した。また，家庭ｸﾗﾌﾞの県料理ｺﾝｸｰﾙで個人で優勝・準優勝となり，関東大会に出場した。 学習面では，資格取得に熱心に取り組み，全商協会主催の検定試験１級３種目以上合格者が17名と前年度より大きく増加するなど，商業高校ならではの特色を出すことができた。 進路面では，平成29年度の内定状況は，進学・就職ともに100%という結果であった。また，商業の学習の成果を活かした大学進学や事務職への就職で実績を残すことができた。 生徒指導では，服装・頭髪・登校指導を定例で行い，基本的生活習慣の確立に努めた。遅刻や問題行動は減少傾向にあるが，ＳＮＳによるﾄﾗﾌﾞﾙが増加している。 文化祭やｸﾗｽﾏｯﾁなど学校行事に対して熱心に取り組む姿が見られたが，部活動については年間を通して継続した活動ができるような取り組みが必要である。 今後は，教職員の共通理解の下，進路実現に向けた基礎学力の向上と規範意識のさらなる高揚を図りながら，特別活動の充実を目指し，地域から信頼される元気で明るい学校づくりに努めたい。	１　授業の工夫・改善を図り，確かな学力を育む	①指導方法の工夫・改善を図り，基礎学力の向上を図る。 ②資格取得を通して学力を養成し，希望進路を実現する。 ③「主体的・対話的で深い学び」のための指導の工夫・改善を行い，確かな学力を育む。	B
	２　規範意識を醸成し，基本的生活習慣を確立する	①様々な活動を通して，規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ②面談や教育相談を活用し生徒理解を深め，信頼関係を醸成する。	B
	３　組織的・系統的なキャリア教育を推進する	①３年間を見通したキャリア教育を推進し，進路に対する意識を涵養する。 ②体験的学習を通して，基礎的・汎用的能力を育成する。	B
	４　特別活動の充実を図り，豊かな心を育む	①特別活動を通して，心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ②生徒会活動，部活動を活性化し，リーダーとなる人材の育成を図る。	B
	５　地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する	①中学校や地域との連携・交流を推進する。 ②地域へ積極的に情報を発信する。	A

評価項目	具　体　的　目　標	具　体　的　方　策	評価		次年度への主な課題
教科指導	基礎学力の向上を図る。	ＩＣＴ教材の活用など計画的に課題等を与えることで，基礎・基本の徹底を図る。１－①	A	A	・「主体的・対話的で深い学び」の指導力向上に努め，生徒の思考・判断・表現力を高める授業実践に務める。 ・上級資格の取得に向けてさらに努力していきたい。
	生徒の自主的学習意欲を喚起するとともに，	生徒の実態に応じた指導法の工夫・改善に努め，「参加する授業」を心がける。１－①	B		
	商業検定試験の合格率向上を図る。	各種検定試験にあわせて，課外等を計画的に実施し，すべての検定において前年度合格者数を超えるよう指導する。１－②	A		
	上級資格取得への意識の向上を図る。	生徒が希望する進路実現のための方策として，各種上級資格取得の援助を行っていく。１－②	A		
特別活動	部活動の活性化と生徒会活動の充実を図る。	部活動の加入率を上げるとともに，生徒会活動を活性化する。４－②	B	B	・行事運営の効率化と部活動の活性化を図る。 ・ボランティアの積極的な参加を促す。
	文化的・体育的学校行事の充実を図る。	文化祭・クラスマッチ等を実施し，感性を育て，クラスの連帯意識を培う。４－①	B		
	生徒の自発的活動の促進を図る。	生徒会活動及びホームルーム運営等で，生徒の自発的活動の促進を図り，適切な指導，援助を行う。４－①	B		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立 １．頭髪・服装 ２．遅刻 ３．礼儀	学校生活の場面で，我慢すること，辛抱する気持ちを育成していく。　２－②	B	B	・アルバイト許可について，考える必要がある。 ・モラル，マナーの低い生徒がいる。 ・遅刻回数普長けての生徒が多くなっている。 ・ＳＮＳの問題。 ・色々なことに自分に責任があることに理解が出来ていない生徒がいる。
		生徒の人格，立場を認めた上で，粘り強く指導する。　２－②	A		
		生徒本人⇔学校⇔保護者間の連絡を密にし，家庭の躾でご協力頂く。　２－②	B		
		各カードを用意し，段階を追っての指導で自覚を促していく。　２－②	D		
		登校指導表・頭髪チェック表・異装願い・遅刻調査を行い段階的に指導する。　２－②	B		
		体罰に頼らない指導を心がける。　１－①	A		
	交通安全の徹底指導 １．原付バイク ２．自動二輪車 ３．普通乗用車	ＨＲや集会，講演会などで年間を通して指導していく。2ー①	A		
		年間指導計画を立てる。2ー①	A		
		定期的な見回りや，地域との密接な連絡を図っていく。5ー①	B		
		３年生第４回定期テスト終了後より自動車教習所を訪問し，情報交換を重ねる。5ー①	A		
	非行の未然防止 １．喫煙 ２．飲酒 ３．無届アルバイト ４．無断外泊 ※クラスマッチ・石岡祭礼	日頃から生徒をよく観察し，非行の兆しに敏感になっておく。２－②	A		
		喫煙，飲酒等発覚の場合は，保護者と連絡を取り生活習慣の改善を促していく。講演会も実施していく。２－②	A		
		手続きをするように指導する。（原則アルバイト禁止）２－②	A		
		生徒本人　⇔　学校　⇔　保護者間の連絡を密にし，保護者を交えての指導を行う。　２－②	A		
	教育相談 １．不登校 ２．指導拒否 ３．長期欠席 ４．いじめ	早期の発見を心がけ，面接，家庭訪問，ＳＣや県教育研修センター，外部医療機関と連携し対応に当たる。２－②	A		
		担任が一人で問題を抱え込むのではなく，学年，生徒指導部等，チームでの対応とし，段階的に指導していく。２－①	A		
進路指導部	１．進路について理解を深め，能力・適性に合った進路決定させる。	進路講話，ガイダンス等の開催，また進路情報の提供などを通して，進路に対する考え方や態度を早期から養う。３－①	A	B	・進路ガイダンスを毎年統一する。 ・スタディサプリを継続して活用する。 ・進学向け外部模試を実施する。
	２・進学に対する啓発を図り，上級学校への進学を決定させる。	進学希望者に対して，基礎学力の向上を図るとともに，個別面談を通して指導を行い合格に結びつける。また資格を生かした進学についての情報提供に努める。１－②	B		
	３．職業の意味や労働の目的を理解させ，正しい職業観・勤労観を確立させる。	就職希望者に対して，企業訪問，企業見学など積極的に行い，基礎学力や資格取得などの能力向上を図るとともに積極的な就職活動を勧め就職内定に結びつける。面接指導を充実させる。１－②	B		

教　　務	授業時間を確保する。	行事の実施日が特定曜日に偏らないように年間計画を立てる。１－①	Ｂ	Ｂ	・総合型校務支援システムの本格的導入と運用方法の確立 ・１２月の面談の是非 ・土曜日に授業・行事を行うことの効果についての検証および振替曜日について ・授業力向上に関連した研修の実施
		出張，年休時の授業交換を確実に行い，授業時間の確保に努める。１－①	Ａ		
	行事の円滑な運営に努める。	事前の準備や他の校務分掌部との調整を早めに行う。１－①	Ｂ		
		行事実施後，課題や問題点を確認し，次の運営に備える。１－①	Ｂ		
	充実した教育課程を編成する。	基礎科目に重点を置き，生徒の希望に対応できる教育課程の編成に努める。１－①	Ｂ		
		選択科目説明会を実施することで，生徒の希望に合った科目選択をサポートする。３－①	Ｂ		
	広報活動の充実を図る。	本校教育活動の紹介を，ホームページや広報紙等を利用し情報の提供に努める。５－①②	Ａ		
		保護者，学校評議員，近隣中学校，地域の方々の声を真摯に受け止め，学校運営に生かす。５－①②	Ｂ		
保健厚生	心身ともに健康でたくましく生きることができる人間の育成をめざし、健康の保持増進に努める。	心身の健康状態の把握に努め，生徒が自主的に自分の健康を保持増進できるよう適切な指導・援助を行う。２－①	Ｂ	Ｂ	・今年度同様の活動を行いたい。 ・地域と連携した活動をしていきたい。
	学年・担任との連携を図り、健康に問題のある生徒の指導と管理に努める。	学年との連携を図り，積極的に健康相談を実施する。　　２－②	Ｂ		
		教育相談をカウンセラーと協力しながら充実させる。　　２－②	Ｂ		
	地域と連携した、防火防災に対する心構えを身につける。	早い時期に避難経路を理解させる。地域と連携した実践が出来るようにする。５－②	Ｂ		
	望ましい教育環境の整備に努める。	環境美化意識を高め，清掃がやりやすい状況を作る。２－①	Ｂ		
図 書 館	学習・情報センターとしての整備・充実に努める。	各教科から生徒に薦める図書をあげてもらう。１－①	Ｂ	Ｂ	・図書館行事への参加者を増やす。 ・図書委員の活動を進めていく。
	図書委員会活動の活性化に努める。	図書委員会を適宜に開催する。４－②	Ｃ		
	図書館利用の振興と図書館行事の充実に努める。	新着図書を「図書館だより」等で広報する。１－①	Ｃ		
	視聴覚教育の充実に努める。	現在保有の視聴覚機材・資料等のより一層の利用の便宜を図る。１－①	Ｂ		
渉　　外	ＰＴＡ，後援会，同窓会との連絡を密にする。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。	Ｂ	Ａ	・行事の運営を工夫し，さらに効率的な運用をめざす。
		ＰＴＡ・後援会・同窓会との親睦を図るとともに，効率的な運用を目指す。	Ａ		
	ＰＴＡ活動の活性化を図る。	総会・支部総会・理事会・生徒指導委員会・広報研修委員会の見直しを図る。	Ａ		
第１学年	基本的生活習慣の育成に努める。	高校生活が無事スタートできるよう，入学後オリエンテーションを実施する。２－②	Ａ	Ｂ	・学年全体で学習及び生活指導にあたることができた。 ・能動的に動ける生徒の育成に努めたい。
		生徒の個人面談を年３回程度実施し，生徒理解に努めるとともに必要に応じて関係機関と協力し，健全な高校生活が送れるように支援する。２－②	Ｃ		
		登校指導やＨＲにおいて挨拶の励行や，正しい言葉遣いやきちんとした制服着用の徹底を図る。２－②	Ａ		
	将来を考える態度を養い，早期の進路決定を促す。	頭髪・服装指導を徹底して行い，身だしなみを整えさせる。２－①　３－①	Ａ		
		進路ガイダンスを実施し，進路に関する意識の高揚を図る。３－①	Ｂ		
		ＨＲや個人面談を通じて自分の将来を考えさせるとともに，その実現に向けて，部活動の参加や資格取得への取り組みを促すなど学校生活の充実を図る。３－①	Ｂ		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携し，授業態度や課外への出席状況など生徒の実態把握に努める。１－①	Ｂ		
		ＩＣＴ教材による基礎学力の更なる向上に努める。１－①　１－②	Ｂ		
	自他を大切にし，豊かな心を育てる。	学校行事を通じて協調性を大切にする心を育てる。２－①	Ｂ		
		ＬＨＲや総合的な学習の時間（道徳）を通じて，他人を思いやる心の育成に努める。２－①	Ｂ		
第２学年	規律ある生活態度の確立を図る。	登校指導やＨＲにおいて挨拶の励行や，正しい言葉遣いの徹底を図る。２－②	Ａ	Ｂ	・進路指導部と連携を図りながら進路実現に向けての指導を行う。 ・基本的生活習慣の社会マナーや他人を思いやる心の教育を継続して行っていく。
		集会や遅刻指導等で，時間を守る習慣を身に付けさせる。２－②	Ｂ		
		服装・頭髪をきちんとさせる。２－②	Ｂ		
		清掃を徹底し，生活環境の美化に努めさせる。２－②	Ｂ		
	進路指導の充実を図る。	進路ガイダンス・インターンシップ等の様々な機会を通して，進路に対する意識の高揚を図る。３－②	Ａ		
		ＨＲや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。３－②	Ａ		
		進路希望の実現に向けて，上級資格取得の推進を図る。３－②	Ｂ		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携しながら，授業を大切にし，真剣に取り組む姿勢を育てる。１－①	Ｂ		
		スタディサプリを活用し，基礎学力の向上に努める。１－①	Ｂ		
		検定試験に向けての課外授業等に積極的に参加させ，上級資格取得を目指す。１－①	Ｂ		
	自他を大切にし，豊かな心を育てる。	ＬＨＲや修学旅行等を通して，他人を思いやる心の育成に努める。２－①	Ｂ		
		清掃・ＨＲ等を通じて，物を大切にする心を育てる。２－①	Ｃ		
		ＨＲや集会等を通して，社会マナーや交通ルールを身につけさせ，他人を思いやる豊かな心の教育に努める。２－①	Ｂ		
第３学年	規律ある生活態度を育成する。	服装・頭髪指導の徹底を図る。　２－②	Ｂ	Ｂ	・就職試験・公務員試験に対応できる基礎学力を定着させる。 ・社会人として必要な基本的生活習慣・服装容儀指導を継続して取り組む
		挨拶・正しい言葉遣いを励行する。　２－②	Ｂ		
		時間厳守・清掃の奨励を図る。　２－②	Ｂ		
	進路指導の充実を図り，希望進路の実現を目指す。	ＨＲや個人面談等で進路意識の高揚を図り，進路目標の早期決定及び希望進路の実現に向けて指導にあたる。　３－②	Ａ		
		就職や進学試験における面接や作文，適性検査への対応を図る。　３－②	Ａ		
	学習指導の充実を図る。	日々の授業やＳＨＲ時のドリルを充実させ，基礎学力の向上を図る。　１－①	Ｂ		
		上級検定資格取得に向け，積極的に取り組ませる。　１－②	Ｂ		
	心の教育の推進を図る。	特別活動を通して，自他を大切にし，他人を思いやる豊かな心の教育に努める。　２－①　５－①	Ｂ		
		ＨＲや学年集会を通して，社会マナーや交通ルールを身につけさせ，その重要性を理解させる。　２－①	Ｂ		

教科	国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力の向上を図り，豊かな言語力を身に付けさせる。１－①	A	A	・授業以外の学習時間の増加をめざす。 ・生徒が自ら学び，学習意欲が持てるように，調べ学習の方法を工夫する。
			机間指導等によるきめ細やかな指導を行い，その成果と課題を明確にし，次年度への改善策を検討する。１－①	A		
			自宅での課題に取り組ませることで，学習習慣の定着を図る。１－①	A		
		読書力を伸ばし，読書の習慣化を図る。	授業で扱った教材に関連する本を紹介する。１－①	A		
			指導者自身の読書体験を紹介する。１－①	A		
			図書館の利用を促す。１－①	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容，方法，進度等について教科内で研究協議する。１－①	A		
			各種研修会に積極的に参加し，教科内で発表するとともに自己研鑽に努める。１－①	A		
	地歴公民	興味・関心を高め，学習意欲を向上させる授業の展開。	生徒の実態に即した教材の精選を行い，諸資料を活用したわかりやすい授業を展開し，学習意欲を高める。１－①	A	B	・就職試験や公務員試験に求められる基礎学力向上及び定着を目指した取り組みを実践する。 ・論述問題等を取り入れ思考力を養う取り組みを実践する。
			時事問題や日常生活の身近な事項も教材として扱い，興味・関心を高める。１－①	B		
		自ら学ぶ意欲を高め，理解を深める授業の工夫。	自ら調べ，問題を解決する能力を高めるために，プリント学習や学習ノートを定期的に活用する授業を展開する。１－①	B		
			理解度を確認するため，ノートおよび学習ノート，プリントの提出を実施する。１－①	A		
	数学	常により良い授業への改善に努める。	授業目標に沿う授業計画を毎時間たてる。1－①	B	B	・基本的な計算や基礎事項を理解できるようにする。 ・進路意識を高める授業展開を目指す。
			授業終了後に指導内容を点検し，気が付いた点を記録する。1－①	B		
			定期的に，実践した授業の成果を含めて見直し，報告し合う。1－①	B		
		基礎学力定着とその向上に努める。	教授法の改善を図る意味で，例題の扱い方や，取り扱う問題の精選のために，実践した授業への生徒の反応を確認し，評価し合う。1－①	A		
		途切れがちな集中力を留め，学習意欲を喚起させるための学習環境の保全に努める。	適度な緊張を持続させ，意欲を持たせるための気持ちの切り替え（リフレッシュ）に必要な術を確認し合い，自己研鑽に努める。1－①	B		
	理科	基礎学力の向上を図る。	普段の授業を大切にし，理解度の確認のため，ノート・ワーク等の提出を行う。１－①	A	B	・実験を取り入れ生徒主体で学習できる環境を整える。 ・視聴覚教材をもう少し活用する。
			指導内容を自然現象や生活体験に関連付けして，興味や関心を深め，理解度を高める。１－①	A		
		授業の改善に努める。	実験・観察，演習などの教材研究をすすめ，教科内で情報交換を行う。２－①	B		
			教員主体ではなく，生徒主体となる授業を展開する。１－③	B		
			ＩＴ，視聴覚教材、副教材や演習を利用して生徒の興味関心を引き出し，学習意欲を喚起する。１－①	C		
	保健体育	生涯を通じて継続的に運動が出来る資質や能力を育てる。	個々の生徒の能力や実態の把握に努め，生徒一人一人に応じた指導を工夫する。また，自ら体調を整え体力を高めることが出来る主体性の育成に努める。　１－①	B	B	・新体力テストの数値の向上 ・主体的な活動を促す ・安全の確保
		健康・安全・環境への意識の向上。	ヘルスプロモーションの観点から，自ら適切な生活行動を選択・実践できるような健康への意識の向上と環境への配慮をし，改善していく努力が必要であることを理解させる。　２－①	B		
			健康的な生活習慣が実践できるように意識を高めていく。　２－①	B		
	芸術	興味・関心を高め，学習意欲を高める授業。	興味を持つ題材の設定と教材の研究を重ねる。　１－①	B	B	・知識や教養およびマナーを身につけられるような授業を心掛ける。 ・設備･備品の整備を進める。
			生徒が自ら創意工夫できる指導方法の工夫。　１－③	B		
			生徒の実態に合った目標設定内容の工夫をする。　１－①	C		
		生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成。	鑑賞の時間を通し，日本、諸外国の文化を知り、芸術に関わる喜びを味わう。　２－①	B		
	英語	基礎学力の向上を図る。	単語テストや小テストをこまめに実施し，就職・進学に向けての基礎学力を身につけさせる。１－①	B	B	・全商英検上級合格者を増やす。 ・ＳＴＥＰ英検の受験者を増やす。
			２・３学年の選択授業を通して，実践的な英語力を養成する。１－①	B		
		分かる喜びを実感する授業実践に努める。	各担当者が授業内容や方法等について研究協議し，授業に生かして行く。１－①	B		
			各種研修会に積極的に参加する。１－①	A		
		興味・関心を高める。	ＡＬＴとのティーム・ティーチングが全クラスでできるよう計画を立て，英語への興味・関心を引き出し意欲的に取り組ませる。1－①	A		
	家庭	基礎的な知識・技術の習得。	実験・実習をとおして，基礎的な知識と技術を習得させ，実践する能力を養う。　３－②	B	B	・知識と技術の習得をさらに効率よくするため，各単元の時間配分について再考する。 ・ホームプロジェクトなど課題解決型学習に力を入れて指導する。
		生徒の実態に応じた指導。	生徒の実態に応じて個別指導を充実させ，生徒個々の生活の向上を図る。１－①	A		
		家庭生活の充実向上を図る実践的な態度の育成。	体験活動，視聴覚教材の活用などにより，社会と家庭生活とのかかわりを知り，よりよく生きるための実践的な態度の育成を図る。３－②，５－①	B		
	商業	授業内容の充実。	生徒の実態に応じた指導法・教材の工夫。　１－①	B	B	・授業内容をさらに充実させ，検定試験合格率を向上させる。 ・上級資格取得に向けた課外等を実施する。 ・より多くの中学校で出前授業を実施し，本校及び商業の魅力を伝える。
			科目担当者間での進度調整や授業内容等の情報交換。　１－①	A		
			授業を受ける際の基本的姿勢と心構えの確立と徹底。　１－①	A		
		基礎科目の知識定着および検定試験合格率の向上。	基礎・基本を徹底して習得させる指導法の工夫。　１－①	B		
			生徒の実態に応じた課外等の実施。　１－②	B		
			年間を通しての計画的な課外等の実施。　１－②	A		
		上級資格取得の奨励。	習熟度に応じた指導法の工夫及び課外等の実施。　１－②	C		
		出前授業の効果的実施。	市内中学生を対象とした出前授業の効果的実施。　５－①，②	A		

※評価基準：Ａ　十分達成できている　　Ｂ　達成できている　　Ｃ　概ね達成できている　　Ｄ 不十分である　　Ｅ できていない